豊中高等学校能勢分校　菅原 亮　准校長　インタビュー

（教育庁）

本日は、校長公募についてのインタビューにご協力いただきまして

ありがとうございます。校長公募に関心のある方に、ぜひ、

校長職の魅力等を発信していただければと思います。

よろしくお願いいたします。

（教育庁）

校長になられる前の経歴も含め、自己紹介をお願いします。

（菅原准校長）

民間企業２社での勤務を経て、現在に至ります。

1社めは教育系出版社で、企画・編集、法人営業、マーケティング・プロモーション、新規事業と幅広い経験の機会をもらいました。

2社めは、外資の経営コンサルティング会社で、人材育成・組織改革を専門としておりました。顧客企業が抱えている課題に対する、DX人材育成支援や新規事業創出の立上げ支援、働き方改革の推進支援等のプロジェクトに従事しておりました。

（教育庁）

そこから、学校の校長先生になろうと思われたのは、どのような考えからですか？

（菅原准校長）

民間企業２社で培った経験を何か社会に還元できることはないかと思ったことがきっかけです。

技術が加速度的に進化し、従来よりも急速かつ多面的な社会変化を迎えることが予測される中で、社会に変化と付加価値をもたらす人材を輩出するにはどうすればよいか、その手段の一つとして公募による校長職を志望しました。

（教育庁）

実際に校長職に就いてみて企業との違い等について感じることはありましたか。

（菅原准校長）

２つあります。１つは民間と学校との文化の違いです。

私が働いているのが公立高校だからかもしれませんが、公共性や公益性の観点から様々な選択肢を天秤にかけながら比較検討やリスクマネジメントする必要がある点が民間と最も違いを感じる点です。民間のように、売上・利益の最大化を最優先事項として、施策や業務等の優先順位付けが難しいことを感じています。

２つめは初めて校長職に就いたとき、驚いたことや気づいたことなどについてです。

学校における「管理職－教職員」の関係は、民間企業における「管理職－部下」との関係とは異なることに驚きました。例えるならば、学校における両者の関係は、「管理職＝商店街の会長」「教職員＝各商店のオーナー」というイメージです。管理職は指示や命令を出すだけの存在ではなく、商店街のビジョンを提示し、各商店が賑わうための支援を全力で行う役割です。教職員と学校が向かうべき方向性を共にし、生徒の成長を一緒に支えることの重要性を実感しています。

（教育庁）

「准校長先生の一日」とは、どのようなものですか？

（菅原准校長）

以下の３点を大切にしています。教職員や生徒との心理的距離を可能な限り近づけることが目的です。

①：朝は必ず校舎前で立ち番を行うこと。生徒と直接顔を合わせて挨拶する。

②：校長室のドアは何か理由がない限り必ず開放する（寒さが厳しい能勢の冬でも）。

③：（自分からは）内線を極力使用しない。対面で話をすることを心がける。

（教育庁）

准校長先生がいまお勤めの豊中高校能勢分校について、「ここが強み」、「ここが自慢」と感じられるのはどのようなところですか？

（菅原准校長）

私が勤務している豊中高校能勢分校は以下の３点を強みとして、他校にはない特色化・魅力化を推進しています。

①：地域ぐるみの探究活動（教室は町ぜんぶ）

②：府下全域＆海外留学生が集い共に学ぶユニークな学び舎

③：一人ひとりの想いや不安にピタリと寄り添う超少人数高校

また、学校教育目標を令和4年度から刷新し、豊中高校能勢分校にしかない価値を磨き込む活動を進めています。

学校教育目標：

「学校づくりとまちづくりを地域とともに実践し、新たな価値を生み出す人を育てる」

能勢・豊能の地域資源を最大限に活かした“能勢分校だからできる教育活動”の追究と実践を、教職員一同が取り組んでまいります。

地域や保護者からは、本校に対する嬉しい声もいただいています。一例をご紹介します。

・能勢分校でできたジャムは本当に美味しい。栽培・ジャムへの加工、そして販売するまで学べることは大変素晴らしい。

・課題探究ＧＳ（グローカルスタディ）は素晴らしい取り組みである。能勢町の課題をグローバル、グローカルな視点で取り組まれている。

・行政、住民との連携が進み能勢分校と能勢町全体とが一体となって、能勢の町の活性化に向かい始めている。

上記でご提示した本校の教育活動は、生徒・保護者・教職員からの学校評価（学校教育自己診断）にも表れています。

・「学校に行くのが楽しい」（生徒）の項目の肯定回答は３年連続70％超え

・「入学させてよかった」（保護者）の項目の肯定回答は３年連続80％超え

・「担任以外との相談体制」（教職員）の項目の肯定回答は毎年90％前後

（教育庁）

校長職に就かれて以降、一番感動したことは、どんなことですか？

（菅原准校長）

感動したことは、昨年度実施した文化祭でのシーンです。あるクラスは体育館の舞台で劇を行ったのですが、授業や他の行事とは異なる観点で生徒が輝いていたことです。生徒が生き生きと自分の役を演じている姿に心を打たれました。昨年度の文化祭のテーマは「一星一輝　～一人一人が輝く星だ～」という標語を生徒たちが決めたのですが、まさに生徒自身が体現していました。生徒たちが持つ多面性と可能性に大変感動しました。

（教育庁）

校長職の醍醐味とはどのようなものですか？

（菅原准校長）

学校に纏わるほぼすべての事項の最終意思決定者であることが、一番の醍醐味であると同時に一番手腕を問われていることだと感じます。組織マネジメント業務は世の中に数えきれないくらいあると認識しておりますが、所謂“雇われの身“で最終意思決定を担う機会は非常に稀有なのではないでしょうか。貴重な機会をいただいていることに感謝をしています。

（教育庁）

これから校長公募に応募しようかと考えていらっしゃる方に、メッセージはございますか？

（菅原准校長）

民間企業２社での経験を踏まえ、異質との接触や融合が、イノベーションの源泉になることを数多くの場面で感じてきました。大阪府は長期に渡って、公募による多様な人材を受け入れてきた土壌があり、同時に新たな取組みを積み重ねてきている経緯があります。皆さんが培われた経験や価値観はきっと大阪府の校長職でも生きてきます。大阪府から公教育のイノベーションを一緒に盛り上げていけることを心から楽しみにしています。

（教育庁）

本日はどうもありがとうございました。